

第31回 日本医療薬学会年会

メディカルセミナー 6



開催形式：ライブ配信

日時 2021年10月9日(土) 11:40~12:40

シン・ケツエキガク

座長 一般財団法人平成紫川会
小倉記念病院
薬剤部 部長

入江 利行 先生

演者 社会福祉法人 恩賜財団
済生会熊本病院
薬剤部 薬剤管理指導室長

柴田 啓智 先生

参加方法

詳細は本学会サイトをご確認ください。
下記URL、もしくは右のQRコードから
ご覧いただけます。

<https://site2.convention.co.jp/31jsphcs/>



シン・ケツエキガク

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院
薬剤部 薬剤管理指導室長

柴田 啓智

入職当時を振り返ると、アルブミンや ATⅢ製剤などが処方された際、只々採血データでそれぞれが低値であることを見る作業に加え、今月何本目の使用なのかを確認だけして払い出していたように思う。今となってはなんとも辛い思い出である。

病棟で患者を担当するようになってからは、低栄養に関わる低アルブミン血症は、患者を診ることによって気づかされることが多くなった。データ→患者からの脱却である。なにも神業のようなフィジカルアセスメントを取得したわけではない。今までよりも少しだけ患者に手を伸ばしただけのことである。

このように、私が薬剤師として成長するには時間を要したのだが、そのあいだに信じていたアルブミンの構造や動態にも様々な変化が報告されていた。唯一の酸化修飾ターゲット部位であった遊離システイン残基 (Cys34) は多様なポリスルフィド化を受けており、分子内ジスルフィド結合を形成しているシステイン残基もチオール化修飾を受けることが明らかになった。製剤ごとのアルブミン酸化度は異なることが報告されているし、アルブミンの長い半減期には FcRn が関与していることが知られている。どうやらアルブミンも成長中のようなのである。

アルブミンのみならず、血液製剤は新しい治療にも活かされていて、近年耳にすることが増えた ECMO による溶血に対するハプトグロビンが有効な可能性があり、当院でも使用頻度は増えている状況にある。

血液が臓器と呼ばれるようになって久しい。そう考えれば一番身近で、多くの方が提供したところのある臓器になるだろうか。患者へ親身になり、心に届く服薬指導を実践するために、血液学を深めることは真の薬剤師へ進む道かもしれない。

シン・ケツエキガク。勤勉な先生方の箸休めとして提供できたら幸いである。

学歴

- 2002年 熊本大学薬学部薬学科卒業
- 2004年 熊本大学大学院薬学研究科
博士前期課程修了 臨床薬学修士取得
- 2017年 熊本大学大学院薬学教育部博士課程修了 学位取得

職歴

- 2004年 済生会熊本病院薬剤部 入部
- 2020年 同薬剤部 薬剤管理指導室長

所属学会・研究会

- 日本臨床救急医学会 (評議員・教育研修委員会・救急・集中治療における薬剤師研修コース運営小委員会)
- 日本集中治療医学会 (集中治療における薬剤師のあり方検討委員会)、日本医療薬学会 (代議員) など

資格

- 日本医療薬学会認定薬剤師
- 日本臨床薬理学会認定・指導薬剤師
- 日本臨床救急医学会認定薬剤師 など